

南極教室の報告

北野高校では、2015年7月15日に国立極地研究所による南極教室を実施した。

この企画は北野高校と南極をつなぐ貴重な機会となった。南極は現在真冬である。テレビ会議システムで南極隊員の方々と直接お話しする体験は臨場感にあふれ好評であった。

7月15日(水)	15時30分～17時30分	北野高校内 六稜ホール (六稜会館3階)
	15時30分～16時	南極について事前説明(元南極隊員伊藤氏)
	16時～17時	テレビ会議(南極隊員の皆さんと)
	17時～17時30分	南極についての解説(伊藤氏)

今回の企画は、北野高校卒業生で元南極隊員の伊藤礼氏の発案により実施された。当日は応募した約70名の北野高校生が参加した。

事前に複数回にわたり、打ち合わせを行い、参加希望生徒への広報、当日の司会進行は北野高校生がお手伝いした。あらかじめ南極隊員の方々への質問事項は南極昭和基地に送信され、それにもとづいて、隊員の皆さんが特別にビデオ映像を撮影準備してくださった。また、寒冷の中、真冬の南極の太陽の昇らぬ朝の風景を中継していただいた。同じ地球でもまったく異なる南極の様子に北野高校生は見とれていた。後半は、昭和基地内部の様子を見せていただき、隊員の方々のインタビューが実施された。各部門の隊員の方々のお仕事や暮らしについてのお話が大変興味深かった。隊員の皆さんが生き生きと活動されているのに感銘を受けたようすであった。

中継終了後は元隊員の伊藤氏により、クイズ形式の南極の解説があり、多くのことを学ぶことができた。最後に、到着したばかりの南極の氷を実際に手に触れ、水に浮かべて氷の溶けるときの様子を観察した。

通信に関しては、7月初旬に極地研究所のエンジニアの方が本校に来訪されリハーサルを行った。南極教室前日には本校物理科教員が再度リハーサル、当日は極地研究所の東京支部の寺村たから氏がセッティングしてくださった。日によって通信状況が不安定な瞬間もあり、改めて地球の反対側の南極の遠さを実感した次第である。幸い電波障害はわずかにあった程度で通信に成功し、北野高校と南極が確かにつながった貴重な1時間であった。

生徒の感想文より(一部抜粋)

・厳しい環境の中で活動されているばかりでなく、隊員の皆さんの生活がとても文化的で楽しそうで驚きました。今回は生活面を重点的に学ぶことができたので、次は学術的な面についても勉強したいと思いました。

・ 隊員の方々はまるで家族のように仲が良さそうでイメージがとても変わりました。生活リズムも確立され、食事もしっかりして体調面でも気遣われていることを知りました。機会があれば、隊員の方々の使命について詳しく聞いてみたいです。

・ 想像していたものと、あまりにも違うので驚きました。隊員のストレスを軽減させる環境を用意できる技術に驚きました。隊員の方々が役割を果たしておられるのを見て、私も自分にできる何かを見つけて活かしていきたいくなりました。今回の講義を聞いて南極に行ってみたくくなりました。

